

# 高知県 注目種ガイド 2018 動物編



アカメ  
桂浜水族館



本山町



いの町

# 注目種について

## 1. 注目種について

本県で身近に見られている野生動物が、全国的には希少であったり、特徴のある分布や生息の状況であったりすることを県民に広く理解していただくとともに、さらに生物多様性の保全が推進され、豊かな自然が次世代につながることを期待し、レッドリストカテゴリーのいずれにも該当しないが本県の自然を代表すると考えられる種を注目種として選定した。

## 2. 選定の経緯

高知県レッドデータブック（動物編）改訂委員会において、分類群ごとに、高知県レッドリスト（動物編）改訂作業と並行して選定を行った。

## 3. 選定要件

区分及び基本概念	区分及び基本概念
高知県注目種 Noteworthy species 本県では、「絶滅」から「情報不足」までの各カテゴリー及び「絶滅のおそれのある地域個体群」のいずれにも該当しないが、特徴ある分布又は生息状況から本県の自然を代表すると考えられる種	次のいずれかに該当し、高知県の自然を代表すると考えられる種
固有種	本県にのみ生息している。
分布北限・南限種	本県の生息地が分布の北限又は南限となっている。
全国的希少種	本県では普通であるが、全国的には希少である。
隔離分布種	本県の生息地が他の生息地から地理的に隔離されている。



四国カルスト

ネズミ目リス科

# ニホンリス

*Sciurus lis*

認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター  
四万十市 2009年12月14日撮影

**【選定理由】**

西日本において本種は広島県で絶滅したとされ、また、中国地方と九州地方の複数の県で絶滅が危惧されていたり、生息情報が途絶えたりしている。高知県では、広い範囲で生息が確認されており、2002年には準絶滅危惧とされたが、今のところ絶滅の心配はなく、また、本県が分布の南限になっている可能性がある。

**【国内分布の概要】**

本州（中国地方以西は少ない）、四国、九州、淡路島（ただし、九州と淡路島では最近の記録が無い）

**【県内での分布】**

徳島県および愛媛県との県境周辺、越知町、須崎市、土佐清水市

**【生物学的特性】**

頭胴長160～220mm，尾長130～170mm，体重250～310g。体毛は腹面では一年中白く，背面の夏毛は赤褐色で，冬毛は灰褐色に変わり，耳介先端の毛が長くなる。昼行性で，主に樹上で生活するが，地表も頻繁に利用する。

**【生息環境】**

平地から亜高山帯にかけての森林に生息する。

**【生息状況】**

標高が高い広葉樹林で広く確認されている一方で，海岸付近の常緑広葉樹林での生息情報はほとんどない。土佐清水市と三原村の境に位置する今ノ山と越知町横倉山の山頂付近の針広混交林で生息が確認されているが，周辺はスギとヒノキの植林となっており，周囲から孤立した個体群となっている可能性が高い。

**【特記事項】**

本種は日本固有種である。九州地方では過去100年以上にわたり写真もしくは標本に基づく本種の生息記録がない。

**【執筆者】**

谷地森秀二

**〈文献一覧〉**

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明. 2008. 日本の哺乳類 [改訂2版]. 東海大学出版会, 神奈川, 206 pp.
- 飯島正広・土屋公幸. 2015. リス・ネズミハンドブック. 文一総合出版, 東京, 88 pp.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編). 2014. レッドデータブック2014 ―日本の絶滅のおそれのある野生生物― 1 哺乳類. ぎょうせい, 東京, 132 pp.
- 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会 (編). 2002. 高知県レッドデータブック [動物編] 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470 pp.
- Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh (eds). 2015. The wild mammals of Japan 2nd ed. SHOUKADOH Book Sellers, Kyoto, 506 pp.
- 田村典子. 2011. リスの生態学. 東京大学出版会, 東京, 211 pp.
- 安田雅俊. 2007. 絶滅のおそれのある九州のニホンリス, ニホンモモンガ, およびムササビ ―過去の生息記録と現状および課題―. 哺乳類科学, 47: 195-206.

コウノトリ目コウノトリ科

# コウノトリ

*Ciconia boyciana*

山崎浩司 大月町 2016年7月24日撮影

## 【選定理由】

高知県では不定期に渡来する迷鳥であったが、近年、国内で再導入された個体群の生息範囲が拡大しつつあり、高知県内の確認例が増加している。

## 【国内分布の概要】

兵庫県への再導入個体が本州、四国、九州各地に移動

## 【県内での分布】

四万十市、宿毛市、四万十町、大月町

## 【生物学的特性】

全長は約112cm。足と首の長い大型の水鳥。頭部から体全体にかけては白いが、翼の風切羽は黒い。足は赤く、嘴は黒い。眼の周囲は皮膚が裸出して赤い。ほとんど鳴かないが、嘴を叩き鳴らすビル・クラッタリングを行い、これを個体間のコミュニケーションの手段として用いる。魚類、カエル、ヘビ、ザリガニ、昆虫を捕食するが、ネズミや小鳥の雛を食べることもある。

## 【生息環境】

河川、湿原および水田の水深の浅い水域で採餌する。乾いた草地や農耕地で餌を捕ることもある。大木の樹上に営巣する。

## 【生息状況】

日本国内の野生個体群は1970年代に絶滅したが、2005年以降、兵庫県豊岡市に再導入され、個体群が定着している。また、これに由来する個体が福井県、京都府、島根県、徳島県で繁殖した例がある。これとは別にアジア大陸から野生個体が国内各地へ不定期に渡来する。高知県へは不定期に渡来するが、秋から冬に確認された事例が多い。確認された事例のほとんどは単独個体である。近年では2010年11月に四万十町、2013年10月に大月町、2015年5月に宿毛市、2016年10月に四万十市、2017年11月に宿毛市と大月町で記録がある。

## 【特記事項】

国指定特別天然記念物、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種。

## 【執筆者】

濱田哲暁



西村公志 高知市 2013年3月10日撮影

## 【選定理由】

高知県では繁殖が未確認であるが、夏期に山岳地帯で生息が確認されており、繁殖が確認されれば南限の繁殖地となる。

## 【国内分布の概要】

本州中部以北で繁殖し、本州中部以南で越冬する

## 【県内での分布】

夏期は香美市の山地、越冬期は県内全域に分布

## 【生物学的特性】

全長は約16cm。体の上面は緑褐色で、黒い斑紋があり、下面は黄色で脇に暗色の斑紋がある。雄は繁殖期になわばりを形成し、樹木の上などの高所でさえずる。一夫一妻で繁殖し、地表や低木の枝に営巣する。昆虫や植物の種子を採食する。

## 【生息環境】

明るい森林や疎林に生息するが、非繁殖期には草地や低木林で生活することもある。

## 【生息状況】

高知県では夏期に香美市の山岳地域で毎年少数の個体が確認され、5月から7月には繁殖行動が観察されていることから、繁殖している可能性が高いと考えられるが、巣卵や巣立ち雛は未発見である。越冬期には高知県内のほぼ全域でごく普通に見られ、生息個体数はきわめて多いが、そのほとんどは本州中部以北や北海道で繁殖した個体と考えられる。標識調査により、北海道江別市で放鳥された個体が冬期に高知市で再捕獲された事例がある。

## 【執筆者】

濱田哲暁

## 〈文献一覧〉

Brazil, M. 2009. Birds of East Asia: China, Taiwan, Korea, Japan, and Russia (Princeton Field Guides). Princeton University Press, Princeton. 528 pp.

樋口広芳・森岡弘之・山岸 哲 (編). 1996. 日本動物大百科. 第3巻鳥類Ⅰ. 平凡社, 東京. 182 pp.

——・——・—— (編). 1997. 日本動物大百科. 第4巻鳥類Ⅱ. 平凡社, 東京. 180 pp.

石原 保. 1982. 四国の野鳥誌. 築地書館, 東京, 190 pp.

MacKinnon, J. R. and K. Phillipps. 2000. A field guide to the birds of China. Oxford University Press, Oxford. 586 pp.

山岸 哲 (監修). 2007. 保全鳥類学. 京都大学学術出版会, 京都市. 393 pp.

カメ目イシガメ科

# ニホンイシガメ

*Mauremys japonica*



認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター  
佐川町 2006年5月31日撮影

## 【選定理由】

本種は愛媛県で絶滅危惧Ⅱ類、徳島県で絶滅危惧IB類、香川県で準絶滅危惧にそれぞれ指定されている。一方、高知県では広範囲にわたる河川や池、水田や市街地の水路で多くの個体が確認されている。本県における生息状況は四国内の他3県と異なっており、高知県の水辺環境を代表する種である。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州および周辺の島嶼

## 【県内での分布】

東洋町から宿毛市までの低地

## 【生物学的特性】

甲長10～22cmで雄よりも雌が大きい。背甲は橙褐色から黄褐色、褐色で変異が大きく、後縁に鋸状の大きな切れ込みがある。指の間に水かきが発達する。孵化直後の幼体は甲長2.5～3.5cmで、背甲の形と色から銭亀と呼ばれる。雑食性で、主に水中の動植物を利用するが、トマトや柿などの農作物も食べる。

## 【生息環境】

河川の中流から下流域を中心に、池、湿原、水田、水路に生息する。水辺に近い比較的乾燥した場所で地面に穴を掘って産卵する。水中の穴、大きな石の下や堆積した落ち葉の中で冬眠する。

## 【生息状況】

低地の水辺を中心に広い範囲で見られる。孵化直後の幼体も各地で見られることから、個体群は安定していると思われる。一方で、クサガメとの交雑個体が確認され、また、ミシシippアカミミガメとの生息場所の競合が生じている。

## 【執筆者】

谷地森秀二

## アカハライモリ

*Cynops pyrrhogaster*

笠木 靖 香美市 2017年9月9日撮影

## 【選定理由】

かつては全国の身近な環境に生息していたが、水稲栽培の変化、農薬の使用、乱開発、水路のコンクリート化、水質の悪化、乱獲により、都市部を中心として生息数が急激に減少し、環境省は本種を2006年に準絶滅危惧（NT）に指定した。隣県の愛媛県、徳島県は本種を準絶滅危惧に指定しており、複数の地方自治体で準絶滅危惧またはそれ以上のカテゴリーに指定しているほか、条例により捕獲を規制している自治体もある。一方、多数の生息が確認されてレッドリストに掲載されていない自治体もあり、2000年の高知県のレッドリストに本種は掲載されていない。本県では現在でも山間部を中心にほぼ全域で確認されており、個体数の著しい減少は認められていない。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州、佐渡島、隠岐、壱岐、五島列島

## 【県内での分布】

東洋町から大月町までの県内全域

## 【生物学的特性】

全長70～140mm。2012年5月に高知県の越知町立桐見川小学校（現在は廃校）のプールで採集された雄146個体、雌184個体の全長の平均値はそれぞれ95.8mm、122.1mmであった。体は一般に背面が黒褐色、腹面は赤やオレンジ色で、

不規則な形状の斑紋をもつが、変異が大きく、腹面の斑紋がほとんどない個体や全体的に黒い個体、背面まで赤い個体がいる。分布が広く、地域によって腹部の斑紋や形態の変異が大きい。繁殖期は4月から7月で、雄は尾を中心に青紫の婚姻色が出る。求愛行動は雄が雌の前で尾を曲げて細かく震わせる。その後、雄が雌の前に落とした精子の入った袋を雌が体内に取り込み、体内受精をする。求愛行動は地域によって微妙な違いがあるとされ、別の地域の雌に対しては求愛がうまくいかない場合がある。産卵は、卵を一粒ずつ水草などに産み付けて行う。産卵数は1回につき40卵まで。数回に分けて1シーズンに計100～400個の卵を産む。幼生は水中生活を経て変態後に上陸し、3歳で性成熟すると主に水中生活を行う。水生昆虫、オタマジャクシ、魚卵他の動物質のものであれば何でも食べる。防御反応として皮膚からフグ毒と同じ神経毒を含む粘液を分泌する。形態および行動に地域による変異があり、遺伝的にも地理的な分化が起こっているとされ、現在、種分化の途上にあると考えられている。

## 【生息環境】

高知県では標高1800m程の高地でも確認されており、広い垂直分布を示すが、止水性で、主に低地から山地の池や沼、水田、湿地や水溜りに生息する。ただし、流れのある河川でも川岸の水溜りや水草の多い流れの緩やかな淀みであれば生息する。水中生活をするが、雨天時やコケに覆われた湿度の高い環境では上陸して移動することもある。そのほか、山間部の湧水地、耕作放棄された水田や廃校になった小学校のプール、市街地で確認された例もあり、さまざまな環境に生息することが確認されている。

## 【生息状況】

県内ほぼ全域で広く生息が確認されており、現在のところ県内での生息状況に悪化傾向はないものと考えられる。

## 【執筆者】

笠木 靖

## 〈文献一覧〉

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編）。2014. レッドデータブック2014 ―日本の絶滅のおそれのある野生生物― 3 爬虫類・両生類。ぎょうせい、東京、153 pp.
- 京都府自然環境保全課（編）。2015. 京都府レッドデータブック 2015 第1巻 野生動物編。京都府自然環境保全課、京都、503 pp.
- 松井正文。1993. 週刊朝日百科 動物たちの地球 97 両生類・爬虫類① アシナシイモリ・サンショウウオほか、朝日新聞社、東京、32 pp.
- 。1996. 両生類の進化。東京大学出版会、東京、302 pp.
- 関 慎太郎。2008. 身近な両生類・はちゅう類観察ガイド。文一総合出版、東京、167 pp.
- 。2016. 野外観察のための日本産 両生類図鑑。緑書房、東京、197 pp.
- 高田榮一・大谷 勉。2011. 原色爬虫類両生類検索図鑑。北隆館、東京、292 pp.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎。2002. 決定版日本の両生爬虫類。平凡社、東京、335 pp.



町田吉彦 浦戸湾 2003年9月14日撮影

## 【選定理由】

宮崎県では個体数の回復が示唆されているが、いまだ絶滅危惧の状態にある。一方、県内では普通の存在とみなせる。

## 【国内分布の概要】

東京湾から種子島にいたる太平洋岸

## 【県内での分布】

東洋町から宿毛市に至る海岸線、内湾および河川感潮域

## 【生物学的特性】

1984年に浦戸湾産の標本に基づき新種として記載されたが、それまでは*Lates calcarifer*や*Psammoperca waigiensis*と混同されていた。臀鰭第2棘が第3棘より長いことが識別形質のひとつとされていたが、この形質には変異のあることが明らかになった。産卵場所は特定されていないが、岸近くの海域と考えられる。幼稚魚は内湾の水草群落で見られ、標準体長15cm前後の個体も珍しくない。動物食であるが、この時期の食性はまだ明らかでない。成長するにしたがいカニ類や魚類を捕食するようになり、岸の近くでボラの群れを追う姿が見られる。宮崎県では明治の初期に全長2.1mの個体が捕獲されたとされており (<http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/yuk/research/akame.html>; 2017年7月7日閲覧)、浦戸湾でも2m近い個体が捕獲されていた。県内では海域で全長1.8m、浦戸湾で全長1.5~1.6mの未確認情報が現時点である。宮崎県が提示したアカメに関する情報では、全長1mを越える個体はすべて雌で、性転換をする可能性が高く、成魚になるまでの期間は雌で約10年、雄で約6年とされている (<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/shizen/kurashi/shizen/akame.html>; 2017年7月7日閲覧)。本種の遺伝的多様性はきわめて低いことが指摘されたが、サンプルサイズが小さく、産地が限定されていて成魚が含まれていない可能性が高い。寿命が長くて性転換をすること、産卵数が膨大であること、産卵場所が県内に多数あるとは考え難いことが本種の遺伝的多様性の低さに関連している可能性がある。

## 【生息環境】

内湾と河口域が成魚の主な生息場所とされがちであるが、海域で捕獲される個体には成魚が多く、内湾と海域を往復していると考えられる。幼稚魚の生育にとってはコアマモ

群落が必須とされ、コアマモの減少がアカメの減少を招くとされていたが、セキシウモとホザキノフサモを含むさまざまな水草群落で普通に採集され、また、ヨシの根元でも見られることが明らかとなった。コアマモの重要性は変わらないが、コアマモ以外の水生植物は小規模河川の感潮域に生育し、河川により広大な群落を形成している。さらに郡部の漁港では、岸壁のすき間、繫留用のロープ、クッション材、船底で多数の幼魚が見られるとの聞き取り情報がある。内湾でも幅広い環境を利用し、浦戸湾ではほとんどの流入河川の感潮域で成魚が見られる。また海域では、河川の増水時に河口付近に集まることが知られている。近年、港湾整備で水面が穏やかになった漁港内で大型の個体がよく見られるようになった。県の中央部から東部にかけての海岸線には消波ブロックによる長大な離岸堤が構築されているが、これが本種にとって格好の生息場所となっている可能性が高い。このように、本種は現在、増加傾向にあると考えられる。高知県のアカメがかつて絶滅危惧IA類(CR)に指定された根拠のひとつに水質汚濁がある。しかしながら、河口域に多くの個体が生息している仁淀川と四万十川は以前から全国で1、2を誇る良好な水質であり、県東部の二級河川も清流で名高い。唯一、該当する可能性があるのは1971年までの約20年間、浦戸湾がパルプ廃液により強度に汚染されていたことであろう。しかしその期間中、浦戸湾にアカメが生息していたとしてもごく僅かで、なにより湾内に進入することがほとんどなかったと考えられることから、水質汚濁が県内のアカメの個体群に大きなダメージを与えたとは考え難い。

## 【生息状況】

かつて本種の個体数が激減したとされたが、根拠となる数字がない。宮崎県と異なり、県内では成魚に対する大きな捕獲圧が過去になかった。現在、浦戸湾と四万十川河口域が釣り場として知られている。高知市内では、浦戸湾流入河川には普通に見られ、鏡川では本流と一次および二次支流で成魚が釣獲されている。さらに浦戸湾では、カニを目的とした刺し網にかかり、漁網の被害が大きくなっている。浦ノ内湾では広い範囲で釣られており、また、魚籠でも獲られている。一部の海域では釣りの対象で、船での釣りもある。定置網に混入したアカメは市販されており、シラスパッチ網での記録もある。2017年2月2日に室戸市室戸岬町椎名の定置網で全長1.25mの成魚が捕獲され、記録の空白地帯であった室戸岬から北の室戸市の海岸線が埋められた。東洋町では紀伊水道から南下して来る集団の一部が冬季に定置網で捕獲されている。

## 【特記事項】

幼魚が販売されているが、成長が速く、放棄されている可能性が高い。未知の場所で増殖すると害魚になりうる。

## 【執筆者】

町田吉彦



スズキ目ハゼ科

## ボウズハゼ

*Sicyopterus japonicus*



遠藤広光 いの町 2001年8月17日撮影

### 【選定理由】

複数の自治体で絶滅危惧種または準絶滅危惧に指定されており、それに準ずる扱いや情報不足としている自治体もあるが県内では普通種で、河川環境の指標と考えられる。

### 【国内分布の概要】

福島県から琉球列島、九州、八丈島、小笠原諸島父島

### 【県内での分布】

高知県全域

### 【生物学的特性】

全長18cm。仔魚の海洋生活期は比較的長い。口は下付きで大きく、腹鰭と共に吸盤の役割を担い、急流も遡る。夏期に河川で産卵し、仔魚は海へ流下する。秋から冬は海で生活し、春から初夏に河川に入ると稚魚へと変態して付着藻類食へと変わる。寿命は4年ないし6年。

### 【生息環境】

中・上流域まれに溪流に達するとされる。冬季には河川内で越冬し、活動する個体が観察されないとされていたが、高知県ではほとんどの感潮域で個体が確認される。

### 【生息状況】

四万十川では中流の魚、仁淀川水系では下流の魚とされているが、県内のほとんどの河川に生息する。2008年の10から12月に、30の河川で若魚ないし成魚が複数個体確認され、2009年に報告された。2015年と2016年には1月から3月に多数確認され、長期間にわたり感潮域で生活する個体の存在が明らかとなった。県内には年間を通して河口がほとんど閉塞している河川があるが、ここでも通年、流れの下端のプールで個体が確認された。冬季に感潮域で見られる個体は全国的にきわめてまれな存在である。

### 【執筆者】

遠藤広光・町田吉彦

スズキ目ハゼ科

## クボハゼ

*Gymnogobius scrobiculatus*



町田吉彦 浦ノ内湾 2015年5月23日撮影

### 【選定理由】

各地で減少傾向にあるとされているが、本県ではヨコヤアナジャコと密接に関連した安定した個体群が各地で認められる。

### 【国内分布の概要】

三重県から宮崎県、福井県から鹿児島県

### 【県内での分布】

高知市以西の干潟および河川感潮域

### 【生物学的特性】

日本固有種で、全長約4cmになる。体は細長く、円筒形。体側に暗褐色の不規則な横帯がある。アナジャコ類やニホンスナモグリの生息孔内で産卵することが知られている。雑食性でやや動物食が強いとされる。

### 【生息環境】

礫の多い干潟でも確認されるが、礫が多く、ヨコヤアナジャコが多数生息している感潮域で見られ、多くの場合、本種と同様にヨコヤアナジャコの生息孔を利用するヒモハゼと同時に採集される。

### 【生息状況】

県の中央部では仁淀川河口域（高知市）、浦ノ内湾および流入河川、須崎湾流入河川、中土佐町で確認されている。西部では黒潮町、四万十市、土佐清水市、宿毛市に産し、土佐清水市の下ノ加江川の河口干潟に多産する。

### 【執筆者】

町田吉彦

## 〈文献一覧〉

- 遠藤広光・清沢遼太郎・町田吉彦. 2009. 第17章 鏡川淡水域の魚類相. 高知市・国立大学法人高知大学 (編), pp. 389-401. 高知市総合調査第1編「地域の自然」, 高知市総合調査受託研究成果報告書. 高知市・国立大学法人高知大学, 高知市.
- 福井正二郎. 1979. ボウズハゼの岩面匍行について. 魚類学雑誌, 26: 84-88.
- 邊見由美・岩田洋輔・伊谷 行. 2014. ヒモハゼとクボハゼによる干潮時のヨコヤアナジャコノ巢孔利用. 日本ベントス学会誌, 69: 69-75.
- 細谷和海 (編・監修). 2015. 山溪ハンディ図鑑15 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京, 527 pp.
- 飯田 碧. 2016. ボウズハゼの生態. 海洋と生物, 38: 370-378.
- Iida, M., S. Watanabe and K. Tsukamoto. 2013. Rivertime life history of the amphidromous goby *Sicyopterus japonicus* (Gobiidae: Sicydiinae) in the Ota River, Wakayama, Japan. *Environ Biol Fish*, 96: 645-660.
- 乾 隆帝. 2015. クボハゼ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編), pp. 240-241. レッドデータブック2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 4 汽水・淡水魚類. ぎょうせい, 東京.
- 石川晃寛・町田吉彦・遠藤広光. 2009. 第19章 高知市新川川の魚類相. 高知市・国立大学法人高知大学 (編), pp. 475-496. 図版1-36. 高知市総合調査第1編「地域の自然」, 高知市総合調査受託研究成果報告書. 高知市・国立大学法人高知大学, 高知市.
- 伊藤猛夫. 1958. 仁淀川—その自然と魚たち— 開発の中に生きるようす. 仁淀川水系河川生態研究会・仁淀川漁業協同組合, 260 pp.
- Iwatsuki, Y., K. Tashiro and T. Hamasaki. 1993. Distribution and fluctuation in occurrence of the Japanese centropomid fish, *Lates japonicus*. *Japan J Ichthyol*, 40: 327-33.
- 蒲原稔治. 1958. 浦戸湾内の魚類. 高知大学学術研究報告, 7: 1-11.
- Katayama, M. and Y. Taki. 1984. *Lates japonicus*, a new centropomid fish from Japan. *Japan J Ichthyol*, 30: 361-367.
- Kinoshita, I., S. Fujita, I. Takahashi and K. Azuma. 1988. Occurrence of larval and juvenile Japanese snook, *Lates japonicus*, in the Shimanto estuary. *Japan J Ichthyol*, 34: 462-467.
- 木下 泉・岩槻幸雄. 1996. 3 アカメ *Lates japonicus* Katayama et Taki, 1984. 日本水産資源保護協会 (編), pp. 103-106, 158-159. 日本の希少な野生水生動物に関する基礎資料 (Ⅲ), 日本水産資源保護協会, 東京.
- 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会 (編). 2002. 高知県レッドデータブック〔動物編〕 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 470 pp. 高知県文化環境部環境保全課, 高知.
- 熊本県希少野生動物検討委員会 (編). 2009. 改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物 —レッドデータブックくまもと 2009—. 561 pp. 熊本県環境生活部自然保護課, 熊本.
- 町田吉彦・丸林友文. 2016. 高知市桂浜水族館に寄贈されたアカメとそれらの産地からの追加情報 (スズキ目: アカメ科). 四国自然史科学研究, (9): 17-20.
- 町田吉彦・長野博光・田中優衣・岡崎鮎美. 2018. 高知県室戸市椎名で捕獲されたアカメとアカメの計測ならびに計数形質 (スズキ目: アカメ科). 四国自然史科学研究, (11): 44-50.
- 長野博光. 2015a. 高知県安芸郡東洋町の定置網で得られたアカメの記録 (スズキ目: アカメ科). 四国自然史科学研究, (8): 17-18.
- . 2015b. 安芸市赤野沖のシラスパッチ網で得られたアカメの成魚 (スズキ目: アカメ科). 四国自然史科学研究, (8): 30-31.
- . 2016. 高知県における釣り人と漁業者によるアカメの記録 (スズキ目: アカメ科). 四国自然史科学研究, (9): 21-27.
- 長野博光・石川晃寛・永井宏樹. 2015. 感潮域のコアマモ以外の水草群落から採集されたアカメの稚魚と未成魚 (スズキ目: アカメ科). 四国自然史科学研究, (8): 1-10.
- 長野博光・永井宏樹. 2015. 高知県香南市赤岡漁港に設置した柴漬けで得られたアカメの未成魚 (スズキ目: アカメ科). 四国自然史科学研究, (8): 19-21.
- 長野博光・阪本匡祥・中尾光利・町田吉彦. 2006. 高知県初記録種を含む高知市新堀川の魚類. 四国自然史科学研究, (3): 50-56.
- 岡村 收. 2002. アカメ. 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会 (編), pp. 176-177. 高知県レッドデータブック〔動物編〕 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知.
- 大塚高雄・野村彩恵・杉村光利. 2010. 四万十川の魚図鑑. いかだ社, 東京, 163 pp.
- 阪本匡祥・町田吉彦・遠藤広光. 2009. 第18章 浦戸湾とその流入河川の魚類相. 高知市・国立大学法人高知大学 (編), pp. 415-432. 図版1-20. 高知市総合調査第1編「地域の自然」, 高知市総合調査受託研究成果報告書. 高知市・国立大学法人高知大学, 高知市.
- 瀬能 宏. 2015. アカメ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編), pp. 216-217. レッドデータブック2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 4 汽水・淡水魚類. ぎょうせい, 東京.
- 瀬能 宏・矢野維幾・鈴木寿之・渋谷浩一. 2004. 決定版 日本のハゼ. 平凡社, 東京, 524 pp.
- 高橋弘明. 2002. クボハゼ. 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会 (編), pp. 200-201. 高知県レッドデータブック〔動物編〕 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知.
- Takahashi, H., N. Takeshita, H. Tanoue, S. Ueda, H. Takeshima, T. Komatsu, I. Kinoshita and M. Nishida. 2015. Severely depleted genetic diversity and population structure of a large predatory marine fish (*Lates japonicus*) endemic to Japan.

Conserv Genet, 16: 1155-1165.

渡邊 俊・飯田 碧・福井正二郎・瀧野秀二・塚本勝巳. 2007. 南紀3河川におけるボウズハゼ (*Sicyopterus japonicus*) の生活史に関する一考察. 南紀生物, 49: 125-130.

Watanabe, S., M. Iida, Y. Kimura, E. Feunteun and K. Tsukamoto. 2006. Genetic diversity of *Sicyopterus japonicus* as revealed by mitochondrial DNA sequencing. Coast Mar Sci, 30: 473-479.

# マキトラノオガニ

*Pilumnopus makianus*



町田吉彦 浦ノ内湾 2015年5月6日撮影

## 【選定理由】

全国的に産地が少ないが、県内では内湾の干潟の転石下で普通に観察される。

## 【国内分布の概要】

紀伊半島、瀬戸内海、南四国、九州・沖縄

## 【県内での分布】

浦戸湾、浦ノ内湾、須崎湾、宿毛市

## 【生物学的特性】

前側縁に4歯があり、顆粒で縁取られる。第3歯と第4歯の内側に小顆粒と短い毛が線状に並ぶ。鉗脚は左右のどちらかが大きい。鉗脚の腕節、掌部に多数の小顆粒がある。歩脚は長短の毛を生じる。

## 【生息環境】

内湾の潮間帯の下部に多く、砂泥の転石の下に潜んでいる。カキ殻が付着している礫の下に特に多く、また、有機物が堆積し、硫化水素臭が漂うような場所にも生息する。

## 【生息状況】

浦戸湾と浦ノ内湾では岸沿いのほぼ全域で普通に観察される。須崎湾では湾奥に多く、流入河川でも観察され、水が滞留しやすい場所に生息する。

## 【特記事項】

1995年には和歌山県沿岸、瀬戸内海、九州沿岸が本種の産地とされ、2002年の高知県の汽水産カニ類のリストにもなかった。その後、徳島県海陽町那佐湾と伊勢田川、愛媛県の御荘湾と宇和島市で採集されている。現在、宮崎県で絶滅危惧Ⅰ類、兵庫県で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている (<http://jpnrd.com/search.php?mode=map&q=111004060212467>; 2017年7月20日閲覧)。

## 【執筆者】

町田吉彦

# タイワンヒライソモドキ

*Ptychognathus ishii*



町田吉彦 土佐清水市 2015年5月20日撮影

## 【選定理由】

いくつかの県で絶滅危惧種ないし準絶滅危惧、情報不足に指定されているが、県内ではほとんどの感潮域に生息する。

## 【国内分布の概要】

神奈川県以南

## 【県内での分布】

県内全域の感潮域、内湾の流入河川

## 【生物学的特性】

最大で甲幅15mm程度の小型種。甲はほぼ平坦。眼窩外歯の後方に弱い切れ込みが一つある。雄の鉗脚の両指の基部に軟毛が密生する。両指の先端は切断された形をなし、その部分で咬合する。甲は一様に茶褐色から暗褐色。

## 【生息環境】

通常は感潮域の上部で多く観察される。河床の礫の間や下からも採集され、干出した礫の下でも頻繁に観察される。大きな礫の場合は数個体が同時にいることも珍しくない。富栄養化が進行した場所にはほとんど生息していないが、河川名称がない細流で発見されることも珍しくない。

## 【生息状況】

本種が県内に産することは2002年に報告されているが分布の詳細は不明だった。その後、高知県最東部の東洋町野根川で確認されたのをはじめとして、準用河川を含むほとんどの土佐湾流入河川および足摺岬から西の小規模河川で確認された。また、浦戸湾および浦ノ内湾の流入河川にも生息し、用水路に近い場所でも確認されている。なお、徳島県の南部と愛媛県の南部でも記録されている。

## 【特記事項】

環境省版海洋生物レッドリスト(2017)と日本ベントス学会はともに準絶滅危惧(NT)

## 【執筆者】

町田吉彦

十脚目ムツハアリアケガニ科

# カワスナガニ

*Deiratonotus japonicus*



町田吉彦 中土佐町 2014年7月16日撮影

## 【選定理由】

関東以西の太平洋側のいくつかの県で絶滅危惧Ⅰ類もしくは準絶滅危惧に指定され、本県でも準絶滅危惧とされていたが、広範囲にわたる感潮域で普通に観察される。

## 【国内分布の概要】

房総半島から九州の主に太平洋岸、南西諸島

## 【県内での分布】

奈半利町から大月町、浦戸湾と浦ノ内湾流入河川

## 【生物学的特性】

甲幅9から11mmの小型種。甲は丸みを帯びた四角形を呈する。前側縁に眼後歯を含めて3歯がある。第2から第4歩脚の前縁と後縁にやや長い毛が密生する。

## 【生息環境】

感潮域の上部の砂礫の多い河床に多く、流水中の礫の下に潜んでいる。浦戸湾と浦ノ内湾では、地図上で確認できないほどの細流にも生息する。清澄な水が流れている場合、河床を歩行しているのを肉眼で観察できる。

## 【生息状況】

県の東部では土佐湾に流入する奈半利川で確認されている。安芸市の河川にも多い。浦戸湾と浦ノ内湾の細流では常に見られる。甲殿川、仁淀川、須崎湾流入河川、中土佐町、黒潮町、土佐清水市の土佐湾流入河川に普通に見られ、足摺岬から西方の土佐清水市と大月町の河川でも確認されている。

## 【特記事項】

環境省レッドリスト（2017）と日本ベントス学会はともに準絶滅危惧（NT）

## 【執筆者】

町田吉彦

十脚目オサガニ科

# ヒメヤマトオサガニ

*Macrophthalmus banzai*



美濃厚志 高知市 2017年8月8日撮影

## 【選定理由】

内湾や河川河口の泥干潟の低潮帯に生息し、生息条件の悪化により全国的に生息地が限定されているが、県内には安定した個体群が存在する。

## 【国内分布の概要】

紀伊半島以南

## 【県内での分布】

高知市、土佐市、須崎市、黒潮町、四万十市、宿毛市

## 【生物学的特性】

甲長25mm、甲幅35mm程度。同属のヤマトオサガニとは雄の第3歩脚腕節と前節に毛が密生すること、鉗脚を眼の上まで大きく振り上げるウェービングのパターンの違いで識別できる。

## 【生息環境】

泥が堆積した内湾や河口域干潟に生息する。湾奥に同属のヤマトオサガニ *M. japonicus* が生息するのに対し、本種は海域に近い干潟に多いとされる。

## 【生息状況】

県内では小河川や船溜まりに形成された小規模な泥干潟でも確認され、個体数は決して少なくない。全国的には本種のほうがヤマトオサガニよりもまれであるとされるが、本県のように大規模な干潟が発達せず、黒潮流域に小さな干潟が点在するような環境ではヤマトオサガニよりも本種を見かけることが多い。しかし、両種が同時に確認された地点もあり、小型個体や雌で両種を区別することが困難であることから、今後、より詳細な分布調査をする必要もある。

## 【特記事項】

環境省版海洋生物レッドリスト（2017）と日本ベントス学会はともに準絶滅危惧（NT）

## 【執筆者】

美濃厚志

〈文献一覧〉

- Henmi, Y. 1989. Life-history patterns in two forms of *Macrophthalmus japonicus* (Crustacea: Brachyura). Mar Biol, 101: 53-60.
- 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会 (編). 2002. 高知県レッドデータブック [動物編] 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470 pp.
- 三浦知之 (編). 2008. 干潟の生きもの図鑑. 南方新社, 鹿児島, 197 pp.
- 成瀬 貫. 2005. カワスナガニ. 沖縄県文化環境部自然保護課 (編), pp. 219-220. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 (動物編) - レッドデータブックおきなわ -. 沖縄県文化環境部自然保護課, 那覇.
- 日本ベントス学会 (編). 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野, xvii+285 pp.
- 佐藤友康・山本藍子・町田吉彦. 2006. 高知県におけるアリアケモドキ属2種の分布 (カニ下目: ムツハアリアケガニ科). 四国自然史科学研究, (3): 9-14.
- 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典 (編). 2013. 干潟ベントスフィールド図鑑. 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合, 東京, 257 pp.
- 高木真成・藤本竜平・早稲田沙織・斉藤知己. 2018. 高知県下の砂浜海岸におけるスナガニ類 (スナガニ属, スナガニ亜科, スナガニ科, 短尾亜目) の出現. 黒潮圏科学, 11: 128-139.
- 武田正倫. 2014. カワスナガニ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編), p. 66. レッドデータブック2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 7 その他無脊椎動物 (クモ形類・甲殻類等). ぎょうせい, 東京.
- Wada, K. 1978. Two forms of *Macrophthalmus japonicus* De Haan (Crustacea: Brachyura). Publ Seto Mar Biol Lab, 24: 327-340.
- . 1984. Pair formation of the two forms of *Macrophthalmus japonicus* De Haan (Crustacea: Brachyura) at a co-occurring area. J Ethol, 2: 7-10.
- 和田恵次. 1995. 短尾下目. 西村三郎 (編著), 原色検索日本海岸動物図鑑 [II], pp. 379-418. 保育社, 大阪.
- Wada, K. and K. Sakai. 1989. A new species of *Macrophthalmus* closely related to *M. japonicus* (De Haan) (Crustacea: Decapoda: Ocypodidae). Senckenberg Mar, 20: 131-146.
- 山本藍子・町田吉彦・佐藤友康. 2005. 土佐湾流入河川ならびに内湾の汽水域に生息する8種のカニ類の分布. 四国自然史科学研究, (2): 1-19.
- ・———・———. 2006a. 高知県の干潟環境におけるタイワンヒライソモドキとヒメヒライソモドキの分布 (カニ下目: モクズガニ科). 四国自然史科学研究, (3): 1-8.
- ・———・———. 2006b. 徳島県南部の感潮域と内湾の潮間帯のカニ類 (I). 四国自然史科学研究, (3): 15-22.
- 山本藍子・水野晃秀・町田吉彦. 2007. 愛媛県南部におけるタイワンヒライソモドキとヒメヒライソモドキの分布 (カニ下目: モクズガニ科). 四国自然史科学研究, (4): 18-21.

チョウ目アゲハチョウ科

# ウスバシロチョウ

*Parnassius citrinarius*



荒川 良撮影 高知市 2017年4月28日採集 (村田のん)

## 【選定理由】

日本西南部における本種の生息地は中山間地に限定されており、高知県は日本における本種の分布南限である。本州では近年増加したニホンジカが有毒であるとされるムラサキケマンまで食するようになり、本種の個体数が減少しているとの指摘があるが、本県ではそのような報告がまだなく、個体群は安定して維持されている。

## 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国

## 【県内での分布】

香美市，長岡郡，土佐郡，高知市，吾川郡，高岡郡

## 【生物学的特性】

前翅長25～35mm。別名ウスバアゲハ。翅は半透明で翅脈が黒く、黒斑を有するが、県内産の個体は白化が著しく、シロチョウ科の種のように見える。年1化で、成虫は4月下旬から6月中旬まで、高標高地では7月上旬まで観察される。

## 【生息環境】

幼虫の食草であるムラサキケマンが生育する明るい樹林帯の周辺で見られるが、ムラサキケマンが生育していても本種が発生しない場所も多い。

## 【生息状況】

生息地は限定されているが、生息地での個体数は多い。ニホンジカとムラサキケマンおよび本種の動向については今後の推移を見守る必要がある。

## 【執筆者】

荒川 良

バッタ目カマドウマ科

# イシカワカマドウマ

*Paratachycines ishikawai*



別府隆守 日高村 1997年7月19日採集

## 【選定理由】

洞穴性の種で、県中部の一洞穴のみに生息する。1954年に新種記載され、県内産バッタ目唯一の固有種であるが、個体群は安定して維持されると考えられる。

## 【国内分布の概要】

四国（高知県）

## 【県内での分布】

県中部

## 【生物学的特性】

体長8.0～10.5mm。体色は濃く、目立った斑紋はない。後脚脛節背面の棘が少ないことで同属の他種と区別できる。

## 【生息環境】

森林内の洞穴に生息する。

## 【生息状況】

本種が属するイシカワカマドウマ亜属はいずれも日本固有種である。本種が生息している洞穴が失われる可能性はまずない。

## 【執筆者】

別府隆守

〈文献一覧〉

- 近藤伸一・永幡嘉之. 2016. シカ食害の影響によるウスバシロチョウの減少と絶滅. きべりはむし, 39: 6-14.
- 日本直翅類学会 (編). 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道出版会, 北海道. 687 pp.
- 日本直翅類学会 (編). 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 学研, 東京, 384 pp.
- 日本鱗翅学会四国支部 (編). 1979. 四国の蝶. 日本鱗翅学会四国支部. 高知, 229 pp.
- 白水 隆. 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学研, 東京, 336 pp.



原始紐舌類ゴマガイ科

# ノミゴマガイ

*Diplommatina gibbera*



多田 昭撮影 須崎市 2015年12月7日採集 (三本健二)

## 【選定理由】

須崎市野見をタイプ産地とする本県固有種であるが、生息地点数、生息個体数とも多く、減少傾向も認められない。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

須崎市

## 【生物学的特性】

殻長3mm、殻径1.6mm、6.5層。ゴマガイ科の中では中型。淡赤色。殻の上半分は円錐形。殻口外唇は上下に鈍い角がある。殻口内に殻軸から突き出た鋭い歯がある。

## 【生息環境】

広葉樹の自然林内の落葉下に生息している。乾燥に弱く、常に適度の湿り気がある場所に集まっている。

## 【生息状況】

各地で確認される個体数は少なくない。野見地区では、半島部に多くの個体が生息している。

## 【特記事項】

本種をはじめ、オオノゴマガイ、ソコカドゴマガイおよびクレゴマガイが須崎市、津野町および中土佐町で採集された標本に基づいて1904年および1905年に新種または新亜種として記載された。これらは、隣接する3市町という狭い範囲にタイプ産地が位置し、形態差も小さく、分類の難しい種群である。

## 【執筆者】

多田 昭

陸産貝類  
汽水・淡水産貝類

オニノツノガイ上科トゲカワニナ科

# タケノコカワニナ

*Stenomelania crenulata*



三本健二 東洋町 2014年12月22日採集

## 【選定理由】

環境省が絶滅危惧Ⅱ類とし、多くの府県が絶滅危惧Ⅰ類としているうえ、絶滅としている県もある。しかし、本県では各地に生息しており、減少傾向も認められない。

## 【国内分布の概要】

静岡県以西の本州、四国、九州、南西諸島

## 【県内での分布】

東洋町、香南市、南国市、高知市、土佐市、須崎市、四万十町、黒潮町、四万十市、土佐清水市、宿毛市

## 【生物学的特性】

殻長5cm。殻皮は茶褐色ないし黒褐色で、やや光沢がある。淡水に生息するカワニナに似ているが、科が異なるうえ、カワニナが卵胎生であるのに対して卵生である。

## 【生息環境】

河川の汽水域の泥底ないし砂礫底に生息する。

## 【生息状況】

県内各地の河口汽水域に生息している。特に、浦戸湾に流入する諸河川の下流部には群生していて、高知市中心市街地の河川でも普通に見られる。

## 【特記事項】

2014年に発表された論文において、沖縄島に生息するムチカワニナと同種とされ、従来使用されていた*Stenomelania rufescens*という学名が変更された。

## 【執筆者】

三本健二

注  
目  
種

〈文献一覧〉

- 安藤保二. 1971. ゴマガイ銘々伝 (第3回). かいなかま, 5: 1-6.
- Hidaka, H. and Y. Kano. 2014. Morphological and genetic variation between the Japanese populations of the amphidromous snail *Stenomelania crenulata* (Cerithioidea: Thiariidae). Zool Sci, 31: 593-602.
- 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.
- 中山駿馬. 1965. 土佐産貝類総目録. 中山駿馬, 高知, 136+12 pp.
- 日本ベントス学会 (編). 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 —海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野, 285 pp.
- 奥谷喬司 (編著). 2017. 日本近海産貝類図鑑【第二版】. 東海大学出版部, 平塚, 1375 pp.
- Pilsbry, H. A. and Y. Hirase. 1904. Descriptions of new land snails of the Japanese Empire. Proc Acad Nat Sci Philadelphia, 56: 616-638.
- . 1905. New land mollusks of the Japanese Empire. Proc Acad Nat Sci Philadelphia, 57: 705-719.
- 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典. 2013. 干潟生物調査ガイドブック～全国版 (南西諸島を除く)～. 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合, 東京, 269 pp.
- 多田 昭. 1989. 四国産ゴマガイ類. 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌, (25): 39-47.
- . 2004. 戸島と神島の陸産貝類. まいご, (12): 4-7.

# 高知県注目種ガイド2018 動物編

平成30年(2018年)10月 発行

---

発行	高知県林業振興・環境部 環境共生課 〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号 TEL(088)821-4842
編集	高知県レッドデータブック(動物編)改訂事業 改訂委員会
デザイン	株式会社HITOTO Corporation 〒780-8035 高知県高知市河ノ瀬町45-1 TEL(088)879-5092
印刷	弘文印刷株式会社 〒780-0863 高知県高知市与力町5-16 TEL(088)822-0240